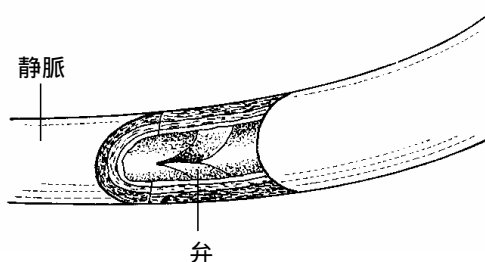




静脈に「弁」があるのはなぜ

血液が逆流しないように、静脈には「弁」がある

静脈は、血液が心臓に帰ってくる血管です。心臓から出た血液は、動脈などの血管を流れて、体の組織に酸素や栄養を運び、帰りは静脈を流れて、二酸化炭素やいらなくなった物を運んで、心臓にもどってくるのです。



静脈を流れる血液には、勢いがないので、かべはうすくできています。そして、中には、血液が逆流しないように、ところどころに弁があります。つまり、静脈に「弁」があるのは、血液が逆流しないようにするためなのです。しかし、静脈の中でも、頭の部分と胸の部分（大動脈）にはありません。

動脈は心臓を出ていく血管です。心臓から、勢いよく送り出される、血液の圧力にたえられるように、かべは厚くできています。

脈を測るのは、おもに手首の内側や首などの動脈

脈というのは、心臓の動き（拍動）を、動脈のトクトクという動き（脈拍）で測るものです。動脈には、心臓から出て勢いのある血液が流れています。そのため、心臓の動きや血液の流れが、動脈をおさえると、よくわかるのです。

動脈は、体の中の深いところをとおっているため、皮膚を通しては見ることはできません。しかし、手首の内側や首など、さわってみるとトクトクと動くところがあり、動脈の動きは、感じるすることができます。ですから、脈を測るのは、おもに手首の内側や首などなのです。（監修・保志 宏）

